

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人山口大学

1 全体評価

山口大学は、さらなる教育研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学へと進化していくことを目的としている。第 2 期中期目標期間においては、学生教育を重視する大学として「育成する人材像」を明確にし、教育プログラムを不断に改善・充実して、学士課程教育や大学院教育を充実することや特徴ある教育研究拠点形成やイノベーション創出機能の強化などを実現するとともに、研究基盤を継続的に強化して多様な研究を促進すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、入試システムを強化するための高度な知識を持つアドミッション・オフィサーの採用を決定したほか、「山口の価値」を解き明かすため「山口学研究センター」を新設するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第 2 期中期目標期間においては、次のような「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

- 獣医学教育の改善・充実を図ることを目指した計画を定めている。

平成27年度は、EAEVE（欧州獣医学教育認証機構）による国際認証を目指し、EAEVE 関係者による事前診断の結果・指摘を踏まえ、共同教育課程の英文カタログ（共同教育課程の詳細説明資料）及び公式訪問診断で必須となるSER（Self-Evaluation Report：自己評価書）を作成するとともに、臨床実習のカリキュラムの充実や関連動物施設の整備を進めている。

- 山口県内の自治体や企業等と連携した実践的課題解決学習や学生の長期海外留学を必修化した国際総合科学部を改革のエンジンとした全学的教育改革を目指した計画を定めている。

平成27年度は、幅広い知識とコミュニケーション能力を持ち、デザイン科学による課題解決能力を有した人材育成を目指す「国際総合科学部」を新設するとともに、地域各界の有識者からなる第三者機関「学部運営評議会」を設置するなど、地域と連携した実施体制を構築しているほか、学修成果を定量的に可視化するシステム（YU CoB CuS）を導入し、学生の自己主導型学修を支援している。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

大学改革のエンジンとなる「国際総合科学部」の新設や教員養成に特化した教育学部の課程再編、学生及び社会のニーズを踏まえた経済学部の再編等を実施するとともに、理学、農学、工学の分野では、企業・社会から要請されているイノベーションを創出できる理工系人材を育成するため、大学院創成科学研究科への再編構想を進めている。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営				○	

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 入試システム強化のための高度専門人材の配置

全国的な入試動向やデータ収集・分析、また、その結果を活用して入試広報を戦略的に行うため、高度な知識を持つアドミッション・オフィサーの選考採用を決定し、平成28年度から配置することとしているなど、入試システムの整備・強化を図っている。

○ 全学的な教員配置のための体制整備

学長のガバナンスの下、大学全体で機動的かつ戦略的に教員配置を行うため、大学の運営を支援する組織である「大学教育機構」「大学研究推進機構」「大学情報機構」や、学長のリーダーシップにより設置している「時間学研究所」に配分している部局基礎ポイントを、平成27年度から全て学長裁量ポイントに切り替えており、3機構に所属する教員の再配置を行うなど、大学の戦略に応じた教員配置が行える体制を整備している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 知的財産収入の増加に向けた取組

新たなロイヤリティ収入確保のため、知的財産（特許、実用新案、意匠等）として公開済みの大学単独出願案件や共有権者の実施の意向がない案件の実施料を一定期間無料とすることで、企業とのコンタクトの増加により産業界との連携が推進され、3件の契約が締結されている。なお、無料開放特許は「シーズ集」として公開している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理・環境配慮、③法令遵守

【評定】中期計画の達成のためにはやや遅れている

(理由) 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、研究費の不適切な経理があったこと等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ データの複数大学間相互バックアップを通じた情報セキュリティの確保

データバックアップの多重化を図るため、山口市や宇部市に所在するキャンパス間でのバックアップに加えて、平成27年10月に鹿児島大学と「山口大学と鹿児島大学との間における公式ホームページ相互バックアップに関する合意書」を締結しており、これまで実施してきた大学間データバックアップ実証実験を踏まえ、公式ウェブサイトの相互バックアップを開始している。

○ 効果的・効率的な内部監査を実施するための計画策定

内部監査の質の向上を図るとともに、効果的・効率的な監査を実施するため、今後6年間において重点的に監査を実施する項目のほか、それに準ずる項目を定めた「内部監査中期計画」を作成し、内部監査実施の基本的な方向性や組織として対処すべき課題を確認するとともに、これらについて関係者の認識の共通化を図ることで、大学を運営する上で抱えているリスクに対し、計画的に取り組むことを可能としている。

平成27年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 研究費の不適切な経理

研究費の不適切な経理が確認されていることについては、原因を究明して対策を講じるなど、再発防止に向けた取組が行われているが、引き続き再発防止に向けた積極的な取組を行うことが求められる。

○ 個人情報の不適切な管理

附属病院において、個人情報記録されたUSBメモリを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 山口県の価値を解明するための研究拠点の形成

山口県における自然、文化、産業、観光、流通、教育等に関する文理融合を目指した研究を推進し、地域の特色を再発見するとともに、その成果を活用することにより地方創生に寄与することを目的として「山口学研究センター」を新設しており、教職員を中心に学生や学外の研究者等からなるグループにより「山口の価値」を解き明かすための研究を推進している。

○ 地域を牽引するリーダー育成のための取組

地域を牽引する「やまぐち未来創生リーダー (Yamaguchi Frontier Leader)」を育成するため、「やまぐち未来創生人材 (YFL) 育成プログラム」を開始し、学生と地域住民がフィールドワークや交流を通して地域の問題点を探る「ミニ移動大学in周防大島」の試行や、「やまぐち地域共創フォーラム」を実施し、学生からの事業報告や、事業協働機関（高等教育機関、自治体、民間企業）によるパネルディスカッションを行っている。

○ 実績を生かした知的財産教育に関する全国的な拠点の形成

知的財産センターは、知的財産に関する知識を利活用できる人材育成の実績により、「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（知的財産教育）」の認定を受けており、知財教育の導入や必修化等を検討している日本全国の大学に対して、これまでに開発してきた教材等を利用し、授業内容及び教育方法の改善を図る組織的な研修を実施している。

附属病院関係

（診療面）

○ 医療安全及び感染制御に関する体制強化

感染制御室及び医療安全推進室を改組し、新たに、企画・管理部門に「感染制御部」及び「医療安全推進部」を設置することで、院内の医療安全及び感染制御に関する体制を強化している。

（運営面）

○ 女性医療従事者への支援

「男女共同参画支援部門」に「医療人キャリア支援室」を置き、育児・介護に関する制度の情報提供、マタニティ白衣・スクラブの貸与、復職に関する相談、ニューズレターの発行及び講演会の開催、女性医療従事者のための更衣・休憩・仮眠室の設置を行うとともに、山口県からの委託による山口県女性医師キャリアコーディネーターを配置し、山口県全体の女性医師への支援、情報提供を行っている。

○ 医療経営センターにおける病院運営の効率化

病院長，副病院長（４名）、病院長補佐（３名）及び事務部長で構成する「病院戦略会議」のもとに設置された「医療経営センター」において、適正な人員配置や導入設備の費用対効果等及び物流管理システムの導入効果の検証を行っているほか、HOMAS2の導入に向けた体制整備や疾患別の受診領域等の調査等を行うなど、病院長のリーダーシップのもと、効率的な病院運営に取り組んでいる。